

平成30年度第1回 中区障害者自立支援協議会 障害者を支える地域を作る分科会議事録	
日 時	平成30年5月24日(木) 15時30分～17時00分
開催場所	中区役所602会議室
出席者	14名
欠席者	2名
開催形態	公開(傍聴人: 名) ・ 非公開
議 題	障害者を支える地域を作る分科会について
議 事	<p>1. 自己紹介</p> <p>2. 話し合い</p> <p>○研修について</p> <p>① 内容</p> <p>【テーマ1】現在両親と同居し生活が安定している方について、親亡き後の支援。どう地域で暮らしていくのか。本人、両親は危機感なし。 対象：親、支援者向け。本当は本人も呼びたいが。 ・これは精神だけではなく身体でも取り上げられているため、幅広い人が対象となる。 ・じりたまで行った講演の対象は作業所に通っていた人。外に出て自分の力を保ちたいが、不安がある人が対象だった。制度すら知らない人が多かったので、前向きになれたという意見挙がった。</p> <p>【テーマ2】地域移行分科会には様々な立場の人が参加しているため、それぞれの立場から見える地域移行とは何か、発表することでまず知ってもらおう。他の部会との連携も必要となってくる。</p> <p>【テーマ3】地域移行・地域定着の進め方を学ぶ。実績のある事業所の話聞く。横浜市以外のところにも来てもらいたい。自分たちも学ぶ、教えてもらうイメージ。 ・入院している人が地域移行出来たモデルケースの共有。住居設定をし、ヘルパー等のサービスを導入するところまで。 テーマ2、テーマ3は似ているため、一緒に扱うこととする。 ・事例提供者として、早稲田大学の岡部先生。息子さんが自閉症の当事者で地域で自立生活をしている。そのドキュメンタリー映画が開催される。50人弱の研修でも来てくれたことがある。</p> <p>【テーマ4】基幹相談支援センターの役割について。基幹ならではの障害種別の多様さで苦労している点や地域移行の必要性について話してもらおう。精神だけではなく、3障害対応という基幹の良さを活かす。</p>

対象：支援者

② 対象（研修に来てもらう人たち）

支援者向けの場合は既にある機会を使えるかもしれない。本人、親対象であるならば、家族会や日中の通所先等呼びかけ方法が変わってくる。

③ 日程

1月後半あたり

→会議室の空き状況次第。結果、1月16日（水）、1月22日（火）、1月28日（月）の3日間が候補となる。

④ 会場

中区役所7階会議室。部屋をつなげると60人程度入れる。

時間としては業務後に行う。（18時始まり、20時撤収？）

⑤ 謝金

みはらし工藤所長に聞く。

→結果、出せることに。

※研修の大枠としては、地域移行の実践を講師の方に来てもらって話をしてもらう。対象は支援者もしくは家族まで広げる。

○今後の進め方

1：施設や病院の方をお呼びして話を聞く

2：その人達が居る場(病院・施設)に直接見学に行く。

3：その場所から地域で暮らしたいと考えている人に会いに行く。

目的：病院や施設の人とやりとりを行う場とする為の投げかけをする。

案として…

・身体、精神の地域移行について。じりたま、中区生活支援センターから事例の報告。

・加齢児問題について。児童の施設に入居しているも成人後行き場がないことがある。理由としては家族の拒否、一人暮らしが難しい場合、GHの空きがない等。横浜市内でも行き場がないので入所をし続けるケースがある。施設としては横浜訓盲院、ぶどうの実等があり、そういった施設の職員の方から話を伺う。

○事例検討について

次回の話し合いでつめることとする。

○次回について

- ・研修についてはメールにて具体的な話を進めることとする。
- ・次回、精神の地域移行に関して、他区の方から 3, 40 分程度話を聞けるか打診をし、結果をメールにて送ることとする。

次回は 8 月 30 日(木) 15 時半～ 中区役所別館 305 号室